

## 名寄で学び得たもの

究報告会と卒業式のみとなりました。春から始まる新しい生活への期待と、長いようで短かった学生生活が終わってしまふ寂しさが入り混じる今、名寄で過ごした日々を振り返っています。

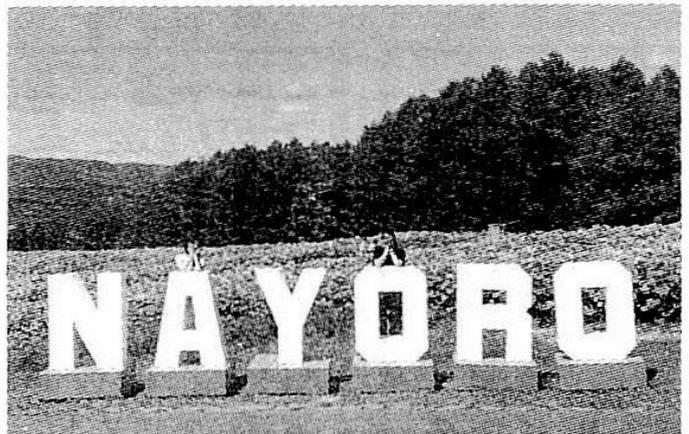
私は名寄がとても好きです。コンパクトな中心部を抜けると、東西に広がる山並みと河川、田畑の風景が目に入りまふ。春には桜と新緑

のやわらかな空気に包まれ、夏には朝晩の寒暖差が育てた野菜の味わいと一面のひまわり畑に元氣をもらえます。秋には黄金色に実るもち米の稲が風に揺れ、冬の朝にはさらさらの雪が光を反射してきらめきます。夜空を見上げると、思わず立ち止まってしまふほどの満天の星が広がっています。日常の中で四季の移ろいを身近に感じられる

こと、そして地域の方々の優しさや温かさこそが、私がこの四年間で見つけた名寄の魅力です。こうした名寄の魅力を知ることができたのは、ここで出会った多くの方々のおかげです。私は市役所や観光協会、農家などでアルバイトを経験し、地域を形作るさまざまな人々と多くの場面に関わる機会をいただきました。地域特性やそこ

に暮らす人々の価値観や生活を理解し、その人らしい人生を支えられる保健師になりたい—そう考えていた私にとって、行政、医療、福祉、教育、産業、観光に携わる方々と関わる時間はとても楽しく、保健師という職業や地域の解像度が上がる貴重な経験でした。

また、大学の講義では、町内会活動に参加したり、他県や海外の学生と交流したりと、たくさんの出会いがあり、この大学を選んでよかったと思えました。人



名寄で過ごした時間と出会いを胸に、健康づくりの視点でまちづくりに関わり、一人ひとりの人生に寄り添いながら支えられる保健師を目指して、これから

と人とのつながりを実感し、大学で得た学びを実際の街の中で考える経験ができたことは、これからの自分の土台になるように。看護学科4年